

第 5 回こどもはぐくみ推進本部会議録（要旨）

開催日時	令和 7 年 1 月 31 日（金） 9:00～10:00
場所	真庭市役所 本庁舎 応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（三ツ教育長）、 総合政策部長（木村）、政策推進監（牧）、総務部長（金谷）、生活環境部長（池田）、健康福祉部長（樋口）、産業観光部長（木林）、建設部長（美甘）、まちづくり推進監（川端）、会計管理者（今石）、教育次長（武村）、消防長（大見）、湯原温泉病院事務部長（西本）、議会事務局長（代理：平田次長）、蒜山振興局長（南）、北房振興局長（行安）、落合振興局長（大塚）、勝山振興局長（三浦）、美甘振興局長（安藤）、湯原振興局長（代理：長須課長）
事務局等	子育て支援課（広岡、吉原、神庭、二宗、水島）
傍聴者	2 名
議事内容	《報告事項》 ①こどもはぐくみ応援プロジェクト 2024 73 事業の事業進捗状況について 資料 1 ②真庭市こども計画の進捗状況について 資料 2 《協議事項》 ①こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025 施策の取りまとめについて 資料 3 ②来年度に向けた検討事項について 資料 4
冒頭の事項	本部長（太田市長）：一昨年からこどもはぐくみを展開し、すぐに何か効果が出るということではないが、<u>真庭で幸せを感じて生活をして、こどもを安心して産み育てることをできるようにするのが私たちの役割。今の日本は世界情勢も影響しているが非常にこどもを育てにくいという状況がある。ただ、こどもを育てることが大変だと思いつている面がある。</u>このことについても率直な意見をいただければと思う。行政の施策は昔に比べると格段に良くなってきている。ただ、これでいいと言っているわけではない。また、子育ても大変と思いつている。今日の新聞を見ても、<u>こどもの低年齢の自殺が非常に増えてる。こどもが育ちにくい、自ら育っていく環境</u>というのがいろいろな意味で、心理的なものも含めて問題なんじゃないかと。特に自己肯定感が低いのは国際アンケートを見ると唖然とする。それはひとえに、今の社会の私たちの責任でこどもに責任はない。<u>真庭でできることが限られていても、市民と一緒に頑張ってこどもを産み育てようという環境を作っていけるように、今の当事者、そしてもっと若い中学生や高校生も含めて意見を得て、施策を豊かにしたいと思う。</u>
①こどもはぐくみ応援プロジェクト 2024 73 事業の事業進捗状況について 資料 1	事務局：特に新規事業等で進捗状況を共有しておくものがあればお願いしたい。 本部長（太田市長）：いいことばかりではなく、問題点や悩みも含めて願います。 産業観光部長：「まにわの木ふれあい事業」は、追加の施設が出て、今発注をしている。今年度中に施設に届く予定。「子育て世帯就業環境改善事業」は、支援について、全国の企業の優良事例として、企業で先輩のお母さんと今現役のお母さんの情報

共有会を企業の中で取り組んだ事例があり、市内の企業に向けて啓発を行う準備をしている。

まちづくり推進監：ポケットパークについて、昨年度は勝山にポケットパークができたが、今年度は募集をかけているがここにできるという報告はできない状況。現在 1 か所話はあるが、最終決定に至っていない。引き続き各振興局はじめ声をかけ地元の方とも話をし、子ども世代が遊べる場を増やせるように努力していく。

教育次長：「こどもの居場所づくり支援事業」は 11 月に市役所の駐車場を使って遊びの機会づくりをし、2 月に遊びに関する講演会をする予定。

健康福祉部長：「母子手帳アプリサービス」について既に導入して年明けから予防接種が開始。現在、ダウンロード数は 500 を超えている。もう少し伸ばしていけると考えている。基本的に 4 歳ぐらいまでのメインターゲット層が約 1000。1000 を 1 つの目標としている。今後も機会を見ながら案内をしていく。「市内就職を志す看護学生への奨学金」は、今年度拡充して募集をかけたところ、9 名の新規応募があった。途中 1 名の辞退があり、最終的に新規で 8 名。今後も実際の看護師確保も進めていく。「こども計画策定」について、現在パブリックコメントを実施中。年度末で策定することになっている。「真庭で働く保育士新生活支援事業」は、4 人の実施。今年度も制度周知のため、養成学校へのリクルート活動を行い、来年についても確保を目指して支援事業や奨学金の返済の助成も含めてアピールを継続的にやっていく。「放課後児童クラブの整備」は、落合児童クラブについては順調に整備が進み、2 月末で完成。4 月から開所ができるように移転の準備等を進めていく。「こども園の ICT 化の推進事業」では今年度で全園完了。今後は情報発信など実際の活用を具体的に進めていく。

総合政策部長：「里山留学事業」について、今年度は長期留学で 1 年間通しての里山留学を募集し、今 1 名が 1 年間中和小学校に通っており、順調にしている。来年度については今応募があるのが 2 名。この取り組みを山陽新聞で取材いただいて何か記事にしていただける予定。「新婚さんバックアップ事業」の実績は、それぞれ利用があり予算も上限に達している状況。来年度も継続してやっていく。

本部長（太田市長）：ほたる公園の整備の状況はどうか。

北房振興局長：ほたる公園は年度末を目途に工事を進めており順調に進んでいる。3 月完成、5 月頃にオープン記念式典を考えている。北房ではお外で遊ぶほうを中心、自然の中で遊べる取り組みを進めている。簡単な整備を地元の方々の力で進めている。

本部長（太田市長）：保育士募集の関係になるが、NHK のニュースを見ていると、保育所かこども園かの保育士たちが自らの手で園の様子を SNS、youtube などに投稿して、保育所の様子を発信しており、それを見て働きたいと思い応募が増えた民間園が出ていた。市内の園でもそういう発信をしてもらいたいと思う。市内のこども園などで自主的な保育士の動きはないか。保育士不足は待っているだけでは集まらないと思う。

健康福祉部長：基本的にはコドモンが全園に整備された。今回、情報発信を充実させていくために公式 LINE と HP との連携もできた。こども ICT ネットワークなどで、取り組み発信しているが、媒体を広げながら進めていきたい。秘書広報課と協力しながら進めていく。

	本部長（太田市長）：余裕はないと思うが、公立の弱さは全体で進めていくところ。民間の場合、それぞれの園が自立、独立しており、それぞれ自分たちでみたいところがある。真庭市も公立なので全体の方針から外れては困るが、もっとそれぞれ園の姿を保護者だけでなく市民に向けて発信する。今やろうとしている園庭解放もその一つ。<u>公立の弱さは、学校も含めて初めから全体方針の中でしか動かないようなところがあると思うのでそれは意識を変えてほしい。</u>
②真庭市こども計画の進捗状況について 資料 2	事務局：前回会議で確認をいただいた計画素案を、12月12日の文教厚生常任委員会で説明、1月14日から2月7日までの間でパブリックコメントを行っている。12月13日から1月6日の間で青少年育成センター運営協議会の委員、1月24日には教育委員会協議会で委員からご意見をいただいた。また、当事者からの意見聴取として、12月27日に真庭市出身の大学生5人をファシリテーターとして、中高生11人による座談会を開催。今後、パブリックコメントでの意見などを反映した最終案を、2月21日に開催予定の子ども・子育て会議にはかり、了承をいただき、3月4日開催の文教厚生常任委員会で報告予定。完成した計画には、関係する令和7年度の事業を取りまとめたものを別冊としてつける予定。 本部長（太田市長）：座談会について少し状況を報告してほしい。 事務局：12月27日に開催したユース座談会では、高校生、中学生から、自然との繋がりや親しい関係が貴重。思いやり、関係作りといった地域との繋がりや、真庭を大事にするといった意見が出ていた。具体的には、学生が気軽に行ける場所が欲しい、リフレッシュできる場所が欲しい、繋がりであれば、真庭市内で出会いの機会が欲しい、大人と若者が気軽に意見交換ができる場所が欲しいという意見をいただいた。 本部長（太田市長）：大阪駅の北側に30年ほど前、貨物ヤードがあり、その中にぼつんと積水のツインビルが2つあるだけだった。20年、30年かけてずっと整備がされてきて北フロントのところにまだ完成していないが、相当広い公園ができた。人数から言うと小さいかもしれないが、デートもできれば、天気良ければそこで腰を掛けて本が読める自由空間がある。大阪はそれでも少なく、東京にもある。この田舎で河原で寝そべて本が読めればいいと思うがそういう場がない。もう少しそういう空間があればと思う。<u>中野区役所は夜の9時まで区役所のある1階の場所を自由に使える。私も夕方行ったら、子どもが3人宿題など勉強をしていた。そういう空間が必要だと思う。座談会でもそういう場所が欲しいという感じもあったと思う。都市部の真似はできないし、都市部よりはその空間があるようでない。</u>皆さんでいろいろな目を肥やしてその辺の現状を見て、若い人たちが自由に行動できればいい。中野区は15平方キロメートルに30万人が住んでいるとんでもない場所。真庭は828平方キロメートルで5万人いない。そういう違いはある。若い人が自由さを感じられる街にしたい。本当は市役所の前の駐車場、車の問題はあがるが、もう少し緑を増やしてベンチを置けたら本当はいいと思う。
《協議事項》 ①こどもはぐみ応援プロジェクト2025 施策の取りまとめについて	事務局：こどもはぐみ応援プロジェクトの令和7年度の予算を取りまとめて、プロジェクトとしてパッケージ化することも・子育て関連施策を資料3でまとめた。<u>令和7年の当初予算の要求では、骨格予算の分を約14億7000万円</u>でまとめ、<u>約80事業を</u>挙げている。特に新規、拡充事業、追加した事業等について説明をお願いしたい。今年度、子育て支援で、企業連携の部分やこどもの居場所について、事業の中に組み込まれている

もの等も含めて説明をお願いしたい。また、例年出しているプロジェクトを取りまとめた市民向けの冊子は 6 月以降に公表をしたいと思う。

産業観光部長：「高校生ビジネス講座受講支援」は高校生がプログラミングやデザイン、英会話を含めてオンラインでセミナーを受講するための費用を一部補助するもので、要求額 100 万円。「高校生チャレンジ支援」は、地域課題をビジネスで解決することにチャレンジする後押しをして高校生が自分たちでビジネスの構想し、実証するための費用を補助するもの。「女性のキャリア開発調査事業」は女性が働きやすい環境を整備するために、プログラミング等の講座の開催を考えている。また、企業のニーズも調査してキャリア開発についてのデータベースを構築する。

教育次長：給食費の助成は、今まで 1 食あたり 20 円を助成していたが、来年度は 50 円に補填を拡大する。新規事業の「蒜山平和学習」は市内の小学校を対象に、蒜山の戦争遺跡を見学し、平和について考える学習を支援する取り組みを実施する。教育魅力化は、高校魅力化の中で、高校での資格取得支援と海外留学、国内の視察研修を支援する。

健康福祉部長：「私立園への給食食材費の助成」について、物価高騰等もあって材料費の高騰がある。その一部分を私立園についても公立園同様に助成をする。「ひとり親家庭の就業支援にかかる給付金」は、高等職業訓練促進の給付金であったが、自立支援の事業も拡充して来年度進めていく。「こども園等の再編整備促進」で、市内の公立園の再編計画を策定予定。「こどもはぐみ応援事業」は事業がいくつかあり、従来通り、こどもまんなかまつり、座談会等の開催のほかに来年度については屋内の巡回遊び場を試験的に市内の振興局や屋内で期限を区切って設定し、将来的には屋内遊び場を考えていく中の 1 つとしてニーズの調査をしながら実施をしていく。「放課後児童クラブの整備」は、勝山小学校区の放課後児童クラブについて今年度設計を完了し、学校内への移転改修工事を行う。

生活環境部長：「北町公園あそび場整備」として、今年度、やまびこグラウンドに敷いていた人工芝を入れ替えている。その人工芝を北町公園に防草の意味も兼ねて活用することを考えている。こどもだけではなく、市民の場になればと思う。これは令和 7 年度単独事業。

本部長（太田市長）：人工芝は改善され、火傷しないようになったと思うが、マイクロプラスチックの問題はどうか。

生活環境部長：グラウンドではスパイクを履くので粉碎されていた。通常の使用であればそれほど手間がかかることは考えていない。

本部長（太田市長）：都市部でも人工芝から自然の芝へ変えるところもあるので、新たに考える際は検討を。十分検討できていないものもあるので、全部を出すのはもう少し確定してからになるのか。そのあたり取り扱いはどうか。

事務局：例年ははぐみプロジェクトの冊子を作成して市民向けに出してるが、そこは肉付け予算の後と考えている。

本部長（太田市長）：財政も全部予算付けしたというわけではないか。

総務部長：この中で急ぐものについては当初でまだ議論が必要な物もあるので、全体で出すのは肉付け予算の後と考えている。

	本部長（太田市長）：国の予算について、最終的に修正もあるかもしれないがその情報は各部局に共有できているか。 総務部長：国の予算、県の予算についてそれぞれ公表している部分でそれぞれ確認してもらっている。こちらから気づいたところは連絡し、有効活用するよう考えている。 本部長（太田市長）：真庭だけではどうしようもない。生ごみの処理の関係など、真庭を意識したものが国の制度としてできてるものもある。それ以外もいろいろとあるのでよろしく願いたい。
②来年度に向けた検討事項について 資料4	事務局：<u>令和7年度マトリックス会議、この本部会議で検討を進めていく事業について、前回開催した推進本部会議の中での意見を踏まえ、先日マトリックス会議で出た意見について報告する。一つ目が、結婚、出産世代の意見聴取。子育て支援課では、今年度、子育て世代を対象とした座談会、高校生年代を対象とした座談会を開催し、意見聴取を行った。来年度も継続して開催する予定。2つ目が、企業への働きかけ。子育て支援課では、経営者や労務担当者を対象とした子育て環境の充実に向けた座談会を今年度も3月14日に開催予定で来年度も継続して開催予定。3つ目はこどもの居場所の充実。今年度は公園について、まちづくり推進課で取りまとめを行っていただいた。来年度は、子育て支援課を中心にマップなどを作成して周知を行っていく予定。以上のとおり、前回の本部会議では、今年度の検討テーマであった企業との連携とこどもの居場所に結婚、出産世代の意見聴取の3つの項目について意見をいただいた。これを踏まえて、先日のマトリックス会議の中でこれまでに実施した各種アンケートの結果や座談会などでの意見をもう一度整理し、情報発信やこどもの居場所など会議のメンバー共通のテーマとは別に少し具体的なテーマを設定し、関係の深いメンバーで検討してはどうかという意見が出た。来年度に向けた検討事項は、本日の会議の意見も踏まえ、これまでに実施した各種アンケート結果や座談会などでの意見をもう一度整理し、来年度の検討テーマを、次回本部会議で提案させていただきたいと考える。</u> 本部長（太田市長）：このことについて、意見があれば願います。 健康福祉部長：この1月、<u>勝山高校の無限プロジェクトの発表会が勝山文化センターであり、はぐみ担当課長、係長と伺い、発表を聞かせてもらった。高校生だけでなく、中学生の発表もあった。自分たちの生活の中、学校生活の中での課題も含めての発表であったが、今の子どもたち、若い世代がどうしているのか、いろいろテーマがあり、いとても興味深かった。聞きに行ったのはある発表するグループが、見に来てほしいという話があり足を運んだ。一般の方々、行政の職員も、若い世代の意見を聞ける場だと思う。学校もう少し広く周知ができていけばいいと思う。高校に対しての働きかけだと思うが、若い世代と意見交換できるようなことを次のステップとして考えていけばいいと思う。</u> 本部長（太田市長）：1つの例として、無限プロジェクトなど発表する場をもっと情報発信すること。あるいはもっといろいろな場を作り、若い人たちの意見を市民も含めて、行政関係者も市民も聞いたり意見交換するような工夫ができればということか。 健康福祉部長：<u>行政も作っていく必要があるというところ。</u> 本部長（太田市長）：そういう場をもう少し作るという話もあるが、その中の情報そのものが出ていないことが問題か。 健康福祉部長：残念だったのが、たまたま個別に情報をもらって足を運んだということ。

見回した感じだと、報道もない状況だった。もう少し皆さんに伝わることがあれば、この先の広がりもあると思う。高校生、中学生もしっかり自分の言葉で発表していた。岡山大学の教授が最後に全体講評されていた。その中では中学生の発表をものすごく評価をされていた。今後はもう少し広げることができるよう、行政として何かできる部分もあると思った。

本部長（太田市長）：今の意見についてどうか。

副本部長（教育長）：以前は案内が来ていたが、コロナ頃から来なくなった。今回教育委員会が把握したのが発表会が終わってからだった。そういう生徒の活躍の場もだが、かつて落合では、高校生が発表した後、地域の方や中学校の先生と一緒にワークショップをやっていた。そういう形が一緒にできれば会話の機会は持ちやすいと思う。

本部長（太田市長）：真庭の中、外の情報を掴んで参加していく。新たにそういう場を作るなど。今、こどもの権利条例の検討をしていこうとしているので 1 人の人間として認めていくことも大事だと思う。そういう場をもう少し情報発信して共有できれば。それから、もっと行政も関わっていく。情報の手段として広報とかどうか。

総合政策部長：情報収集には努めている。ただ、残念ながら漏れてるものもある。把握できてないものはいろいろな関係機関、ネットワークを作ることが考えれる。発信をする手段としては、公式 LINE と HP との連携やまにアプリなど媒体は増えてきているので、あとはしっかりと情報収集をやっていきたい。

副本部長（教育長）：冒頭での市長の話でもあったが、こどもたちが生きづらくなって、自殺者数も増えている問題がある。この問題はやはり大人が考えていけないといけない。こどもの数が減っていくことは、相対的に大人が増えることになる。その大人のあり方が、本当にこどもを個の人格として尊重しているのか、やりたいことがやれる環境を担保しようとしているのか。先ほど定義という話があったが、これから真庭だけではなく基本全体大事になっ
ていけないといけないと思う。屋内循環の遊び場なども通じながら、大人とこどもが一緒に話しながら今後の幸せについて考えていく場所を積み上げていくのが次年度以降大事
になってくると思う。

本部長（太田市長）：こどもの数が相対的に少なくなっていく。安全は必要だが手のひらの上
にいるだけではダメだし、それではこどもは本当に窮屈。時代の違いは仕方ないが昔はもっとおおいかった。

落合振興局長：明日、真庭高校の発表会がある。落合総合センター 2 階の多目的室である。都合がつく方は来ていただけたらと思う。

本部長（太田市長）：高校生のいろいろな発表に施設を使ってもらったらよい。そういう意味でも、行政と高校との連携ができれば。真庭高校のそばにある cafediningbar313 は高校生が集まるなど新たな現象は出ているか。

落合振興局長：なかなか中には入りにくいようで施設の外で話をしているという話を聞いたことはある。中に入ると何か注文しないといけないなど気になるという話は聞いている。その辺りは頼まなくてもいいようだが入りづらいという話を聞いている。

本部長（太田市長）：月 1 レストランの予約や情報発信などはどうなっているか。

落合振興局長：下方の月 1 レストランは発信を真庭高校のブログ、ホームページで次の予定を流している。場所にも次のオープン予定を書いて表示はしている。

	本部長（太田市長）：やはりわかりにくく、彼らの苦勞が行かないとわからない。彼らが いかに自分たちのものを広めて売るか、学校の中で経営を考えることになると思うが周知 について手作りの看板など作ったらよいと思う。
閉会	副本部長（教育長）：<u>子育て支援は真庭の未来に直結する内容で、終わりがあることではない。まさしくここにいるメンバー、それから市役所内を通じて知恵を出し合っていくことだと思う。</u>みんなでまちづくりを進めましょう。
確認事項	・こどもはぐみ応援プロジェクト 2024 の事業進捗状況について共有した。 ・真庭市こども計画の進捗状況について計画策定に向けて開催したユース座談会で出た高校生年代の意見を中心について共有した。 ・こどもはぐみ応援プロジェクト 2025 施策の取りまとめ状況について、今後の周知のタイミングについて確認した。 ・来年度に向けた検討事項について意見交換を行った。